(団体名)公益社団法人みらいサポート石巻

(事業名)震災伝承関連当事者の「絆力」強化 ロジック・モデル インプット アウトプット 課題 アウトカム 活動 初期 中•長期 ①住民主体の伝承連携 ・H32年度までに県内に 【H30年度末】 宮城県内の ①住民主体の伝承連携 震災遺構や展示施設が - 伝承活動を担う被 ・伝承団体との調整 ・打合せ 回数 計36以上整備予定。 絆力事業 災者間の「絆力」強 •研究機関との調整 ・3.11メモリアルネット 被災住民の伝承活動と ・スタッフ2名 化による地域間連携 【H32年度末】 • 行政機関との調整 ワーク会員数、アドバイ 施設との連携が不可欠 •交诵費等 •被災住民と行政、研 復興予算の終了後も ザー数増加 必要経費 究機関との「絆力」強 被災住民と行政・研 化による官学民連携 ②住民主体の伝承企画 究機関・他地域との •3.11メモリアルネット ②住民主体の伝承企画 ・語り部参加減少に伴う 「絆力」による相乗効 ワーク参画主体による ・3.11メモリアルネット 他地域との「絆力」低下 【H30年度末】 (他事業) 果が発揮され、 プロジェクト企画補助 ワーク参画団体による •来訪者ニーズやネット ・伝承活動を担う被 責任者1名 各伝承拠点において 企画調整回数 情報発信、受入れ窓 ワーク化への対応不足 災者間の「絆力」強 他 生きがいを持って参 口の連携調整 ・県内団体の連携強化、 化による地域間連携 画できる連携体制の 参加者推移の共有体制 ・県外からの訪問者 宮城県15団体の震災伝承プログラム参加者推移 3.11メモリア 構築 140,000 減少傾向鈍化に向け ルネットワー 120,000 •震災を知る若者世代 ③伝承担い手人材育成 た連携開始 100.000 ク会員・アド による伝承支援 80,000 世代間交流の創出 バイザー等 60.000 学校等との調整

【復興予算終了後】 被災住民が地域や 世代を超えて「絆力」 の再構築を継続

未来の世代のため に「震災の教訓を活 かした新たな地域」 を創出

- ・若者、学校等との 「絆力」強化による連 携事例
- 活動基金の蓄積

40,000 20,000 ■2012年 ■2013年

■2014年 ■2015年 ■2016年

- ③伝承担い手人材育成
- ・震災を知らない世代と の断絶
- 将来の担い手育成

からの協力

- •担い手育成基金支援
- ・担い手基金の準備

【H30年度末】